

みんなの個性を大切に  
継続的向上を目指して

2018年11月10日

特定非営利活動法人熊本南自立支援センター  
うきUKI豊穰（うきうきほうじょう）

宮崎由紀生

# 設立の経緯

- 趣旨

代表者(理事長)が障害者雇用特例子会社で多様な障がいのある人たちとともに働いた経験を活かし、農業分野での福祉サービス事業を熊本県宇城市で農業生産法人宮崎農園(有)と提携し、農・障の自立を目指すこととした。

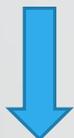
- 経過

**2012年09月03日** NPO法人「熊本南自立支援センター」設立認証

**2012年12月10日** 就労継続支援事業所(A型)「うきUK | 豊穰」  
福祉サービス事業者指定・事業開始

# 事業スキーム

NPO法人（熊本南自立支援センター）



A型事業所（うきUKI豊穰）



<事業提携>

農業生産法人（宮崎農園有限公司）

- ・ 就労継続支援事業（A型）の運営
- ・ 農業（農産物の生産・加工・販売）

- ・ 労務の提供（作業請負）

- ・ 就労機会の提供（作業委託）
- ・ 施設の貸与

（参考） 宮崎農園の概要

設立：平成6年 従業員数：12名

主要作物：米（40h）麦（15h）ブロッコリー（20h）

ミニトマト（80a）

## うきUK | 豊穰の方針

- **利用者さんの個性を大切に**した支援計画に基づきサービスを提供し、提供したサービスの評価改善を行いサービスの**継続的向上**を図ります。

# 提供するサービス等の内容と支援体制

サービスの種類：就労継続支援A型（雇用型）

指定年月日：平成24年12月10日

作業内容：農業及び関連の作業

利用日数：土・日を除く週5日

利用（就労）時間：原則6時間（9:00～16:00）

利用定員：12名　　利用者数：11名（10/30現在）

## スタッフ

管理者(1)　　サービス管理責任者(1)

生活支援員(1)　　職業指導員(2)　　総務(1)

# 活動概要 (1)

- 主な自立支援活動の内容 (マネジマントシステムをベースとして)

- ① 毎日6時間働くための生活習慣づくり

- ② 働くための基礎づくり (毎日の朝礼・終礼を通して)

- ・ 朝のあいさつ
  - ・ 報連相
  - ・ A B C
  - ・ ダラリ
  - ・ 4 S

- ③ 作業マニュアルの整備

- ④ 原則3カ月ごとのモニタリング (面談)

- ⑤ 利用者さんの外部での発表等への支援

- ・ サビ管研修
  - ・ 支援学校 (在校生への講話)
  - ・ 普通学校へ全国集会 等

- ⑥ 変化への早期対応 (話しやすい雰囲気づくり)

## 活動概要 (2)

- 主な生産活動の内容

- ① ミニトマト

定植から収穫・トマトハウスの管理まですべての作業を担当

- ② ブロッコリー

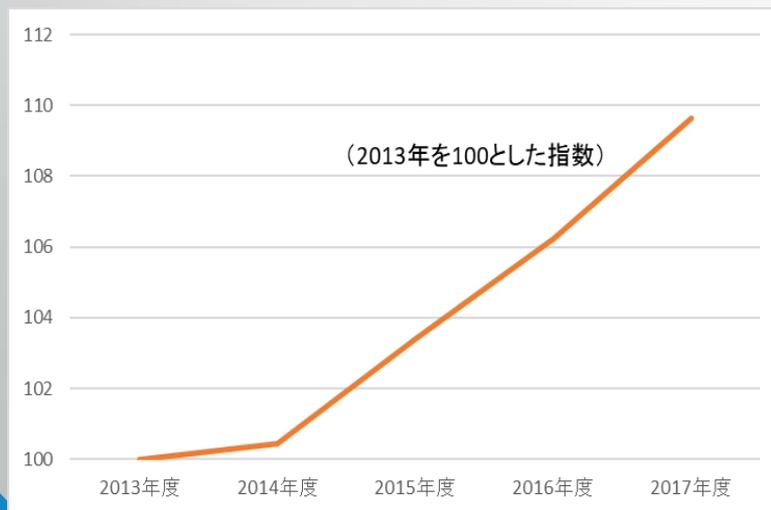
収穫補助（運搬） 追肥 草取り

- ③ 水稲

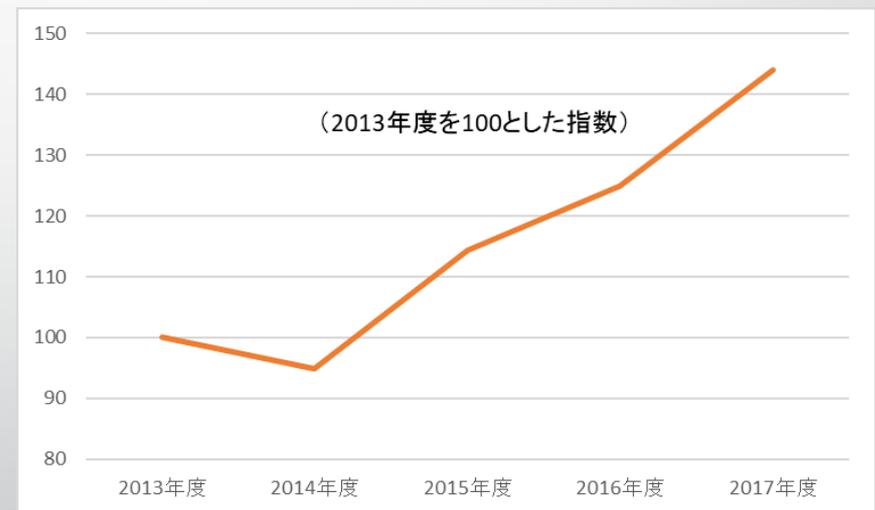
田植えの補植 畦波張り 草(ヒエ) 取り

# 活動結果(1) (自立支援活動)

利用者平均賃金の推移 (¥/h)

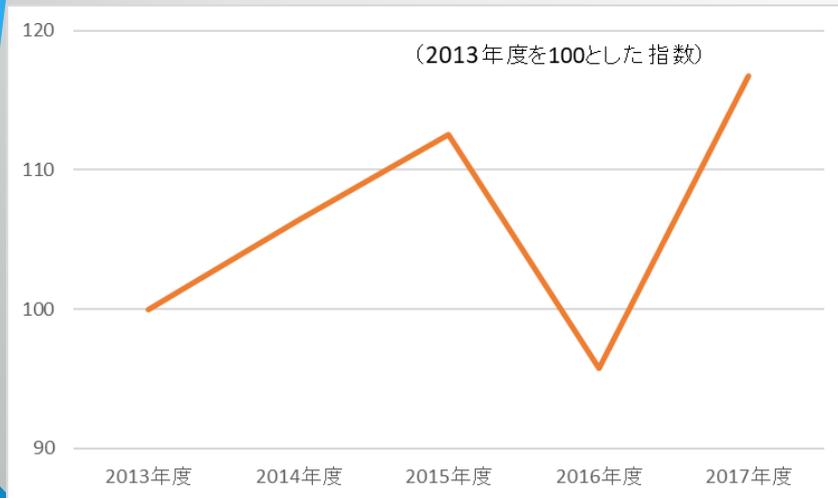


利用者賃金総額の推移 (¥/年)

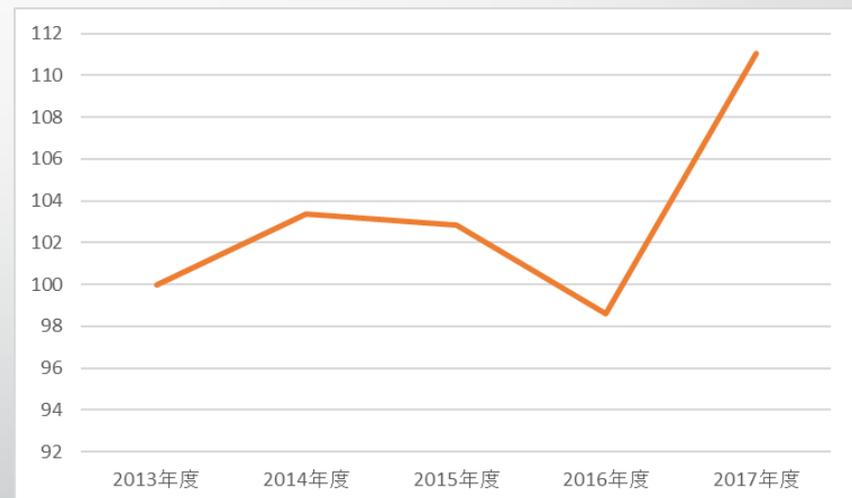


## 活動結果(2) (生産活動)

ミニトマト生産量の推移 (トン/年)



生産活動収益の推移 (円/年)



# 個人特性と適応作業表

評価区分 4:できる 3:ややできる 2:ややできない 1:できない

メンバー	作業件名							評点	RANK
	収穫	手入れ	灌水	営繕	車両運転	工具操作	共同作業		
A	4	3	3	3	1	3	2	19	7
B	4	3	2	3	1	3	2	18	8
C	4	4	3	3	3	3	3	23	3
D	3	4	2	2	2	2	3	18	8
E	4	4	4	4	4	4	3	27	1
F	4	4	3	3	3	3	3	23	3
G	4	4	3	4	1	4	4	24	2
H	3	3	3	4	1	2	4	20	6
I	3	3	2	2	2	2	2	16	10
J	3	3	4	3	4	3	3	23	3
K	2	2	2	4	1	2	3	16	10

## これからの課題と対応 (収益向上を目指して)

- 人 : 個性を大切にした継続的支援によるスキルアップ  
頑張りに応じた評価と処遇
- 商品 : 既存品 (ミニトマト) の収量アップ  
新規品の開発と量の確保
- システム  
: 作業管理システムの充実による効率化  
地域生産者ネットワークの構築による消費者への  
アプローチ  
関係機関・組織・人との連携

# まとめ

地域と連携し

みんなの個性を大切にP-D-C-Aサイクルを回して  
事業活動の継続的向上を目指します！！



# TSUNAGU

つなぐ

# 天水福祉事業会の紹介

法人理念 「つなぐ」

復古創世  
～過去から現在そして未来へつなぐ～  
報恩感謝  
～ありがたいの感謝の心で～  
国家福祉  
～世の為、人の為に～

設 立 昭和28年

所在地 熊本県玉名市天水町小天6638

職員数 150名

経営事業 児童福祉部門（4か所）  
障がい児・者部門（6か所）  
高齢福祉部門（3か所）



# tsunagu village



# 第二天水学園について

所在地 熊本県玉名市天水町小天6645-1  
(天水町人口約6000人)

開所年月日 平成17年4月1日

サービス 就労継続支援B型(定員 30名)

支援内容 みかん・トマト・稲作を中心とした農作業や、清掃作業、工芸品作りを通して、主に知的障害者の利用者さん(18歳以上)に就労支援や生活支援、相談支援を行っている。

平成29年度平均工賃額:月25,045円

(熊本県の平均14,042円/平成26年度熊本県発表)

作付面積等

みかん「早生・青島・葉みかん・雑柑」・・・2ha、売上約200万円

※直売、地元卸業者への販売、加工品化、自家消費

トマト「れいよう」・・・0.4ha(ハウス9棟)、売上約400万円

※JA玉名への出荷、自家消費、加工品化

稲作や野菜等については地元の農業法人が主となり生産

# 農福連携への取り組み

- 昭和54年 精神薄弱者施設「天水生命学園」開園  
県下11番目の更生施設としてスタート、作業科目（プログラム）として農作業を採用
- 昭和56年 三角町に実習地として農園を開墾・取得 → みかん栽培を開始
- 昭和63年 稲作へシフト 5反よりスタート（40俵）
- 平成6年 農業法人「若宮農園」設立  
自給自足達成（200俵）、外販（卸）開始、トマト栽培にも着手
- 平成17年 通所授産施設「**第二天水学園**」開園 ※障害者自立支援法  
通所授産施設として分離（就労支援に特化し栽培品目を拡大）
- 平成20年 大型精米機導入、米小売開始
- 平成23年 カット工場新築、米倉庫
- 平成24年 「呑んきや」開設
- 平成26年 みかん・トマト等六次産業化に着手
- 平成29年 米焼酎「ココカラ」「ツナグ」販売開始

# 農福連携コーディネーター事業について

- 1、概要      平成29年度熊本県工賃向上計画支援事業の特別事業の一事業として実施  
熊本県が、社会就労センター協議会を通して、  
（福）天水福祉事業会 第二天水学園に委託
- 2、内容      コーディネーターを1名配置して、農作業の請負を希望するB型事業所等と、農作業を外部に依頼したい農業者を仲介（マッチング）し、契約調整を行う

# 取り組み開始までに行ったこと

- コーディネーターをどうするか

熊本県OB等の紹介、ハローワーク等において募集

知人友人からの推薦・紹介、法人内での検討・・・・・・・・

- 対象事業者をどこまでとするか

地域、業種（A型、B型等）

- 農業者側の掘り起しはどのように行うか

熊本県農林水産課、JA等・・・・・・・・

- 事業内容を具体的にどうするか

どのような中身をいつ、どこまで調整するか・・・・・・・・（長野県・香川県等参考に）

# 取り組み開始

## 1、福祉サイドへのアンケート実施（H29.6）

種別、農業参入の有無、利用者の作業内容、マッチングの希望の有無、課題等

## 2、アンケートの分析

大多数の事業所が既に農業へ参入済み、販路の確保や農業技術の習得等に課題

## 3、事業所の選定（H29.7～8）

すべての事業所へのマッチングは不可能であるため、福祉事業所の選定を行う

## 4、農業者サイドへのアプローチ

(株)農テラス 山下氏にアドバイザーとして協力依頼、農業事業者の選定を開始

## 5、「熊本モデル」の策定

### 熊本モデル

形態	施設外就労（1ユニット職員1名、利用者3名以上）
モニターの実施	2日×2週（午前か午後の2時間）
金額	一回 3500円（1ユニット2時間）とする
契約内容	モニター実施後、期日・回数・業務内容等お互いに相談して決定
その他	天候、行事等に左右されず、施設外就労は必ず相互協力の下実施すること

## 6、本事業説明会 兼 情報交換会の開催（H29.9）

福祉サイド：チャレンジめいとくの里、  
サニーサイドワークセンター、  
ピュアマインド、  
済生会ウィズ、  
第二天水学園

農業サイド：ナチュラル、  
燦燦ファーム、  
武田農園、  
池端うずら園、  
中村農園



## 7、モニターの実施（H29.12~1）

情報交換会、熊本モデル等の説明を行い、実施事業所を決定

福祉事業所名	農業者名	農作業内容	モニター実施期間・ エリア等
サニーサイド ワークセンター	(株) 燦燦ファーム	パクチーの洗浄、梱包・ 計量、ハウス内外の草取 り、肥料散布	1 2月（全4回） 菊池エリア
チャレンジめい とくの里	(株) ナチュラル	パクチーの収穫・選別・ 袋詰め、 加工品、ハウス内外の草 取り	1 2月（全4回） 植木エリア
ピュアマインド	武田農園	ベビーリーフの収穫、選 別、とうもろこし栽培、 ハウス内外整備、除草	1月（全4回） 和水エリア

## 7-1 モニターの様子



## 7-2 モニターの様子



## 7-3 モニターの様子



## 7-4 モニターの様子



# モニターの結果

- 試験的にモニターを行った3ケースのうち、施設外就労契約に結び付いたのは2か所。
  - 残り1か所は、単発での農作業請負実施として継続すると話がまとまった。
- ⇒結果を踏まえて、関わった農業者と福祉事業所からの意見聴取。  
分析、今後の課題等を検討する。

# 事業実施を振り返って

- 福祉サイドと農業サイド、双方からのニーズがとても高い
- 両者の相互理解、共通の目的意識・問題意識を持つことが重要
- 農業サイドが、雇用型農業にスライドできるか
- 福祉サイドの事業所全体としての体制整備・事業への理解

# 平成30年度の取り組み

- 対象エリア等を拡大（八代、あさぎり、熊本市）して実施中
- 農業者サイドの掘り起し（熊本県農林水産部、JA、各市町村）
- 前年度マッチングケースの継続支援
- 社会就労センター協議会等を通して、農福連携の理解・促進活動を実施

はじめよう！

農福連携



ご清聴ありがとうございました

## 「熊本の農福連携の実態調査報告～マッチング～」

### 【テーマ内容】

～農福連携を成功させるポイント～

- 1、「農業」を生産活動として就労の場を提供している事業所の実例
- 2、提供する側（農家）と受容する側（事業所）の立場の違い
- 3、Win-Win になるような仕組みの作り方

### 【プロフィール】

山下弘幸（やました ひろゆき）

農業参入コンサルタント

株式会社農テラス 代表取締役

株式会社アグリビジネスマネジメント 取締役

新規農業参入から、農業ビジネス戦略まで、農業事業者、経営者を幅広くサポートする

『企業専門の農業戦略コンサルタント』

野菜農家の3代目として熊本益城生まれる。

1989年熊本県立農業大学校を卒業後就農。スイカ、ナス、ホウレン草など野菜を主に栽培。

2012年全国初となる農業参入専門のコンサルタント会社「株式会社農テラス」設立し、

100社以上の農業事業支援（自治体農業支援含む）を行う。また、新・農業ビジネスを

テーマにした講演会の動員数は延べ10,000人を突破。

2017年より熊本県農福連携コーディネータとして双方向がWin-Winになるような架け橋を実施している。

著書に「稼げる、新農業ビジネスの始め方」など

詳しくはホームページ 株式会社 農テラス <http://www.notera.co.jp/>

## 全Aネットのめざすもの

### 就労継続支援A型事業は、必要な事業

障害者総合支援法における就労継続支援A型事業は、福祉契約と同時に労働契約を締結しなければならないが、最低賃金の支払いを原則としている。したがって職業能力はあるけれど、人間関係やコミュニケーション不足などの環境要因により一般就労が難しい障害者にとって、労働者として身分保障がされる、必要以上に負荷をかけず、精神面や生活面のサポートが期待でき、また企業に近い環境で一般就労に向けた職業訓練が期待できる、福祉的就労分野における労働者性を有する唯一の事業である。

日本政府は2014年1月に障害者権利条約に批准した。インクルーシブでディーセントな障害者就労施策は喫緊の課題である。合理的配慮が社会一般に根付くまでの間、A型の果たす役割は大きいと考えている。また一億総活躍社会の実現が言われているが、今後障害者をはじめ、引きこもりやニートなどを含め、A型の可能性は大きいと考えている。

### A型事業の難しさ

A型の運営の難しさは、福祉施策における事務業務や相談・精神面のサポートに加え、生産性にハンディをもった障害者に仕事を提供しつつ最低賃金をクリアしなければならないことである。本来、A型事業は、利用者に働いてもらいたい思いだけで、「仕事はあとから何とかしよう！」ではむずかしい。最初に仕事の目途が立って、はじめて事業を開始、利用者を募集すべきである。したがって支払うことができる賃金総額に見合う利用者定員とすべきであろう。

経営改善提出条件の収支だけでない、不利な条件でも、あえて努力している事業所もある。①移行支援に努力している事業所 ②社員のプライドや生活のため、最大限の賃金を支払っている事業所 ③重度障害者を積極的に雇用している事業所 ④短時間労働になりやすい精神障害者を多く受け入れている事業所などである。今後、これらの項目を含めたA型事業の総合評価方法を確立することは課題であろう。さらに最大の課題は良質な仕事を確保することである。

### 全Aネットがめざすもの

全AネットはA型事業所の質的向上とエンパワメントを図ることを設立趣旨とし、障害者がプライドをもって働き、地域でいきいきと生きていけるように支援をしていくことを目的とした企業、社会福祉法人やNPO法人等からなる全国組織である。

持続可能なA型事業にするには、A型事業所が生産事業での収益による運営基盤を構築することに尽きると考えている。しかし収支だけでなく、障害者の働くに関する就労全般の支援をしていくことも健全な運営には不可欠である。

全 A ネットは、「A型事業所の質の評価のセルフチェック表」を作成し、HP (<http://zen-a.net/>) に公開している。難しく大変な事業であるけれども、重度障害者にも就労の場を提供するという使命を忘れずに、今年度以降、①A型事業所の好事例集の作成 ②優良事業所の認定制度構築 ③各地方での良き A 型事業所を増やす取り組み (全国各地でフォーラム開催) に努力したい。また、全 A ネット会員が自ら情報開示と情報発信を行い、良き A 型事業所の運営の見本を示していくこと。また地域でのネットワークづくりを進めることにより、貧困ビジネスの参入を阻むためにも、地域の情報交換を密にすることが大切と考えている。

持続可能な A 型事業にするには、A 型事業所が生産事業での収益により運営基盤を構築することに尽きると考えている。しかし収支だけでなく、障害者の働くに関する就労全般の支援をしていくことも健全な運営には不可欠である。難しく大変な事業であるけれども、重度障害者にも就労の場を提供するという使命を忘れずに努力したい。

【健全な A 型事業運営をめざす】～A型事業所の質の評価のセルフチェック表～

- ①アセスメントを入念に実施、自己決定を尊重、就労と地域生活を支援
- ②働きがいのある仕事の提供
- ③労働者としての権利保障と職業訓練
- ④安全衛生環境の確保
- ⑤本人の希望で、一般就労へ支援
- ⑥提供するサービスの自己評価を行い、事業の継続・発展に努める。

【今後の取組み】

- ①A 型事業所の好事例集の作成
- ②優良事業所の認定制度構築
- ③各地方での良き A 型事業所を増やす取り組み～各地でフォーラム開催

平成 30 年 11 月 10 日

全 A ネット理事長 久保寺一男

# 大会宣言

～誰のために、何のために自分たちが在るのか～

就労継続支援 A 型事業所が多い、この熊本という地域で本大会を開催させて頂いたことは本当に意義深いものだと改めて感じています。平成 30 年 4 月からの障害福祉サービスの報酬改定では、就労継続支援 A 型事業所の役割がこれまでより明確化されたと考えています。

まず 1 点目は、労働時間による基本報酬の設定です。労働時間を延ばしていくこと、すなわちご利用者の所得向上を積極的に行うことで、それ相応の報酬体系となりました。2 点目は、一般就労へ結び付ける支援に対するこれまで以上の加算の設定です。これまでも就労移行支援体制加算として設定されていましたが、今回の報酬改定で就労定着人数に応じた加算算定となりました。

この 2 点から考えると、ご利用者に対してさらに質の高いサービスを提供する必要性がより高まったと考えられ、それが A 型事業所に課せられた役割、使命ではないかと思われま

す。

こういった制度の流れを踏まえて、本大会においては、自分たちが「誰のために、何のために自分たちが在るのか」ということを、今一度考えてみることをテーマに掲げることとしました。労働時間を延ばしてご利用者の所得水準を向上させる、一方ではご利用者を一般就労へ結び付ける、事業の方向性として相矛盾するような福祉サービスを提供していく必要があります。ただ、A 型事業所を運営する上では、このどちらにも対応していく必要があり、そこにはご利用者のニーズをきちんと把握した上で支援を行っていく他に方法はないと思います。全 A ネットの基本方針にも掲げてあります「アセスメントを入念に実施し、利用に関しては利用者の希望を最大限尊重する」という姿勢を A 型事業所全体が持つことで、結果、地域の障害をお持ちの方々のニーズを満たすことになるのではないかと思います。

私たちは、利用者一人ひとりのしあわせを実現することに誠実に取り組み、そしてその積み重ねから、社会のしあわせを追求していかなければならないと思います。そのためにも、「誰のために、何のために自分たちが在るのか」ということを常に意識しながら、地域の A 型事業所同士で連携していきます。

平成 30 年 11 月 10 日

就労継続支援 A 型事業所全国協議会

「はたらく NIPPON ! 計画」A 型フォーラム in 熊本

大会実行委員会、参加者一同

# 「はたらく NIPPON！計画」A型フォーラム in 熊本

～誰のために、何のために自分たちが在るのか～

## 報 告 書

■日 時：平成30年11月10日（土） 10時～17時

■場 所：くまもと県民交流館パレア

■参加人数：206名

**基調講演** 10：10～11：10

「就労継続A型と合理的配慮」

講師：野沢和弘 氏（毎日新聞論説委員）

障害者施策の変遷と経済・企業等の側面から「合理的配慮」について、障害者の潜在的労働力、主体性を取り戻す働き方など、具体的な事例を挙げながら講演いただきました。

**行政説明** 11：10～12：10

「障害者就労支援施策の動向～A型事業所の現状と課題を中心に～」

講師：石井悠久 氏（厚生労働省社会援護局障害福祉部障害福祉課）

現在の障害者を取り巻く状況等や就労継続支援A型事業所の適正な運営について、事業所の実態調査を踏まえた経営改善計画の主旨と今後の運用方法について講演いただきました。

**講演** 13：10～14：10

「越境するA型の活動」

講師：飯田大輔 氏（株式会社恋する豚研究所 代表取締役）

事業を開始する経緯や事業所の紹介、事業を行う上での着眼点や他分野の専門家を巻き込んだ事業展開と新事業の立ち上げについて講演いただきました。

**分科会** 14：15～15：35

●分科会1「九州から盛り上げるA型事業所の未来」

コーディネーター：本村達弥 氏（NPO法人まちくらネットワーク熊本 施設長）

登壇者：井上靖 氏（株式会社ぱいおにあ 未来サポートステーション統括施設長）

玉城卓 氏（合同会社ソルファコミュニティ代表）

山田健二 氏（社会福祉法人 東康会 統括施設長）

坂本暁彦 氏（NPO法人ゆとりワークショップ道の家 サービス管理責任

者）

各登壇者より事業所活動の紹介、今後の課題として、最低賃金・消費税増税に対する対応等についての情報共有を行いました。

- 分科会2「官民一体となって創り上げるわが街くまもと～ネットワークを活かして～」  
コーディネーター：山田浩三 氏（熊本市障がい者自立支援協議会 就労部会長）  
登壇者：小山恭正 氏（熊本市障がい保健福祉課 企画調整班・主査）  
原田文子 氏（くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター「縁」主任支援ワーカー）  
福島貴志 氏（はーとアラウンドくまもと 会長）  
桑崎善幸 氏（NPO法人まちくらネットワーク熊本 副理事長）

熊本市障がい者自立支援協議会就労部会での各機関との連携事例や、熊本市とA型事業所との連携「AMT（A型ミーティング）」の活動報告、事業所間連携についての報告を行いました。

- 分科会3「熊本の農福連携の実態報告～マッチング～」  
コーディネーター：松本保孝 氏（社会福祉法人十百千会障がい者総合支援センターゆきぞの統括施設長）  
登壇者：宮崎由紀生 氏（NPO法人熊本南自立支援センターうきUKI豊穰理事長）  
國友哲太郎 氏（社会福祉法人 天水福祉事業会統括施設長）  
山下弘幸 氏（株農テラス 代表取締役）

各事業所の「農福連携」の事例報告と福祉事業所と農業者とのマッチングにおける「熊本モデル」の報告を行いました。

**全体ミーティング** 15：50～17：00

- 分科会報告

各分科会コーディネーターより分科会の報告を行いました。

- 九州・沖縄の各支部より挨拶

パネリスト・コーディネーターを務めていただいた福岡県の井上靖氏、熊本県の本村達弥氏、沖縄の玉城卓氏の他に、佐賀県より中村儀成氏、大分県より羽矢一弘氏、長崎県より舩元淳子氏、鹿児島県より谷山寛英氏にご挨拶をいただきました。

- 全Aネット報告

報告者：久保寺一男理事長

全Aネットより活動報告と各機関からの助成事業委託の今後の展開・取り組みについて報告を行いました。

- 大会宣言

発声者：本村達弥 氏（NPO法人まちくらネットワーク熊本 施設長）

#### \*全体的なまとめ

講演・行政説明・分科会と盛り沢山な内容となりましたが、フォーラムのサブテーマである「誰のために、何のために自分たちが在るのか」について、いろいろな視点から論議され、我々支援者は制度の動向に対応しながら、利用者方々の「はたらく」をどのように支援していくかのヒントを得られました。

また、九州・沖縄地区の各事業所間の連携を感じましたし、今後、さらに連携の進化を期待できる内容のフォーラムとなりました。

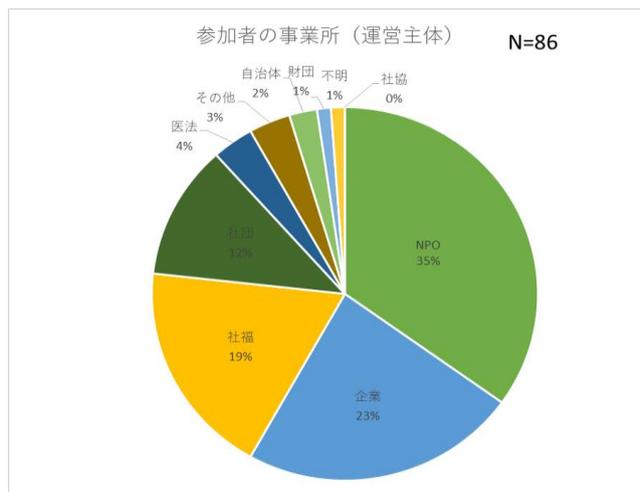
開催にあたり、日本財団の助成をいただいたこと、また後援をいただいた熊本県・熊

本市に深く感謝申し上げます。また、熊本県のA型事業所には入念な準備をしていただき、お陰様で良いフォーラムとなりました。深く感謝しております。

# 「はたらくNIPPON！計画」A型フォーラムin熊本 アンケート結果

## I 事業所の運営主体の種別について

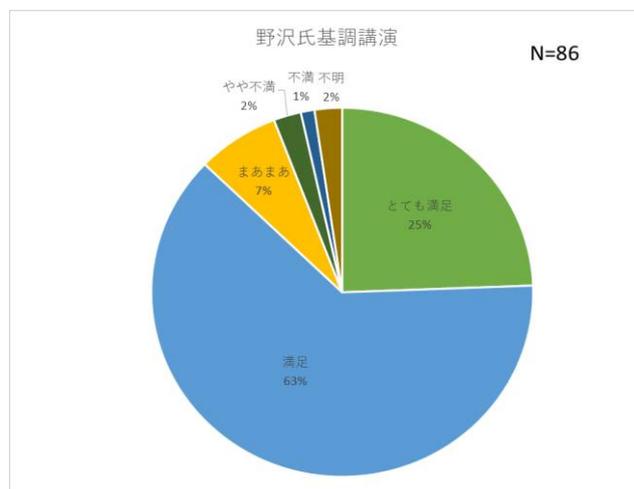
1. 事業所の運営主体	
自治体	2
社協	0
社福	16
医法	3
社団	10
財団	1
企業	20
NPO	30
その他	3
不明	1
合計	86



## II 全体会について

### \* 基調講演について

野沢氏基調講演	
とても満足	21
満足	54
まあまあ	6
やや不満	2
不満	1
不明	2
合計	86

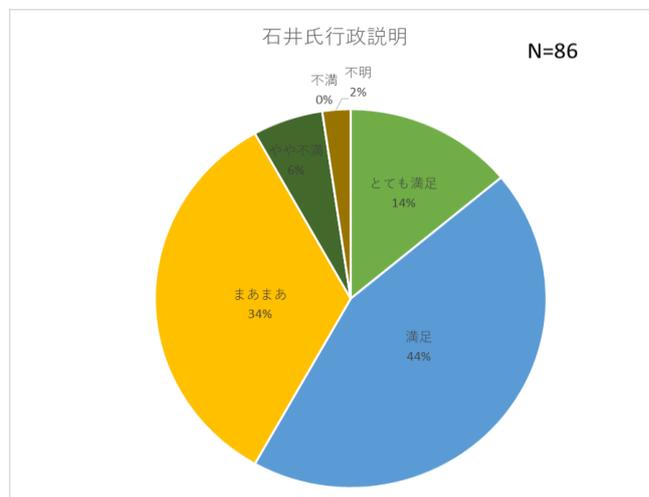


### ■コメント抜粋

- ・雇用のことを話の核にされていたので面白かった。
- ・様々なところで合理的配慮は必要であると思いました。
- ・あまり興味が持てなかった。
- ・個別支援＝合理的配慮につながってくると感じた。
- ・職場環境を整えることで作業効率の向上や周囲のよい影響があるというところは納得できた。
- ・合理的配慮＝負担ではなく、様々な視点から見ることでアイデアに変えていくという考え方がとても参考になりました。
- ・障がい者への関わりが、世の中を変える一助になる考えが共感できた。
- ・合理的配慮をする事でより良い自立支援、より良い社会作りが進む事と思います。
- ・A型の枠をもっと広げる為には私達の努力・連携・企業や法律面の緩和が大事だと思います。
- ・合理的配慮が障がいのある方のためだけでなく、ゆくゆくは、障害あるなし関わらず世の中が変わっていくことにつながるという視点、改めて考えさせられました。

### \* 行政説明について

石井氏行政説明	
とても満足	12
満足	38
まあまあ	29
やや不満	5
不満	0
不明	2
合計	86



### ■コメント抜粋

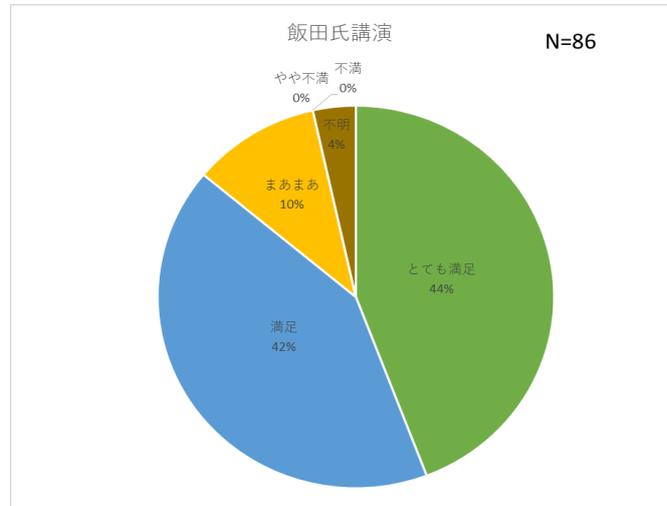
- ・適切な運営について、資料参考になります。
- ・現在の統計を知るにはいい
- ・最賃等利用者賃金は上がる一方で訓練等給付金等はなかなか上がらないのでスタッフ等の待遇も改善していける様にしっかりと考えて欲しい。

・売り上げだけを重要視するのも時代の流れで仕方ない事かもしれません。でも、実際はそういう仕組の理解がむずかしい利用者さんは、コミュニティーを求めて来られるのを毎日見えています。居場所だけじゃダメなのかな？という考えから抜けきれない。福祉人失格でしょうか？毎日、葛藤しています。

・行政がA型に望むのは、工賃向上、一般就労への移行と思いますが、労働時間については、求人にている一般就労の求人とのバランスが必要と思います。一般よりA型の方が収入も良く、支援も充実しているとなれば一般就労したいという当事者の目標は薄れてしまうと思います。

**\* 講演について**

飯田氏講演	
とても満足	38
満足	36
まあまあ	9
やや不満	0
不満	0
不明	3
合計	86

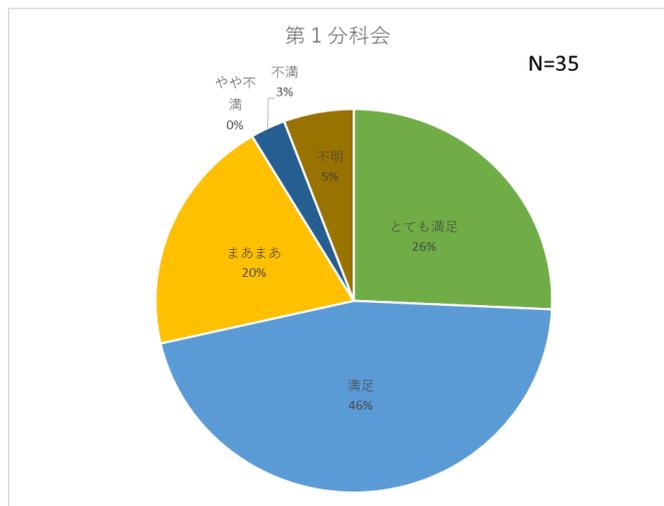


**■コメント抜粋**

- ・障がい者という枠にこだわらず、就労困難な立場の人を支援できるような事業所が必要だと再確認した。
- ・福祉畑からのスタートではなく異業種からゼロからの立ち上げ、ご苦労あったかと思う。視点が面白かった。
- ・可能性を感じさせられる話が聞けて良かった。
- ・内容はすごいと思いました。初めて聞く者には分かりずらさがありました。
- ・成功している事業所の話ですか、拡大すぎ、現況として、無理を感じます。
- ・生産しているモノのクオリティを上げる事が収入を上げる為に大切ということがなるほどとおどろきでした。どうしてもクオリティや魅力が足りないのはしかたない部分があったからです。
- ・「できない」ばかりを考えていたら前にすすめないということを思いました。すばらしい視点と実践力、感動しました。
- ・今後のA型あるいは、就労支援の行く道として面白い展開や物事のとらえ方等、大いに参考になりました。
- ・イノベーションコラボ、今後も足元をみつめなおし視野をひろげます。
- ・印象に残ったのは”分業化すると専門性が高まる”→難しい仕事になる？ホント？というところ。
- ・型通りの話ではなく、聞きやすかったが、もう少し具体的なお話が聞きたかった。
- ・講師の方が面白く、きちんと経営についてかんがえながら楽しんで活動できているようで羨ましいです。
- ・いろいろな取組、経営や支援に対する考え方など勉強になりました。

**Ⅲ分科会について**

分科会1	
とても満足	9
満足	16
まあまあ	7
やや不満	0
不満	1
不明	2
合計	35



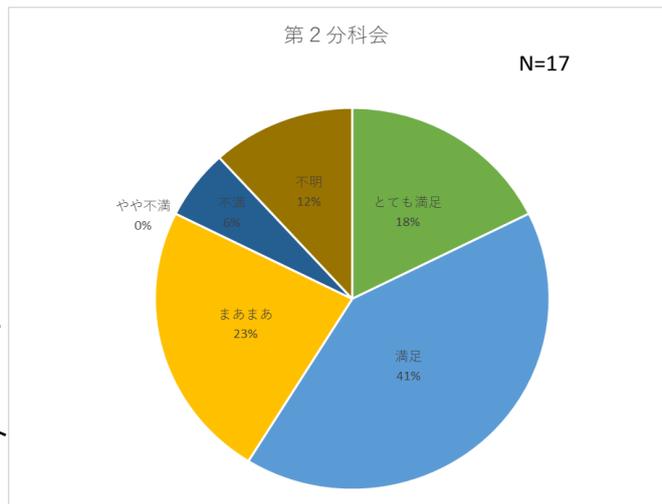
**■コメント抜粋**

- ・方向性をまとめた方がいい。
- ・いろんな事業所の話が聞いたのが良かったです。障がい児の支援をしている中で、子供達の未来が気になって参加しました。不安も期待も生まれまし
- ・普段の業務で余裕がないが、仕事を様々なところから見て、地域や企業と連携していかなければならないと強く感じた。
- ・東康会、山田さんの意見に同感するとともに、今後、特例除外での適用が困難になる様子であれば、人選し退職して頂きB型事業所へ転職してもらって運営をしていく方向をとらざるを得ないのではないかと思います。本当に厳しいです。
- ・なぜ同じメンバーをパネラーに選ぶのか？こんな事してますだけで何も面白くない。こんなにたくさんの人をつまらない話につきあわせるな、時間給考えた事あるのか？みな遠くから来ているのに。
- ・自分には難しいのでわからないが多かったけど わからないなりに受け取る部分も大きかったです。でもやっぱりわからなかった、、、
- ・他事所の情報など、さまざまな取り組みを知る事ができよかったです。
- ・施設外就労と一般就労を目指す方々の支援は一般企業との連携によって成立するかと考えます。

分科会2	
とても満足	3
満足	7
まあまあ	4
やや不満	0
不満	1
不明	2
合計	17

#### ■コメント抜粋

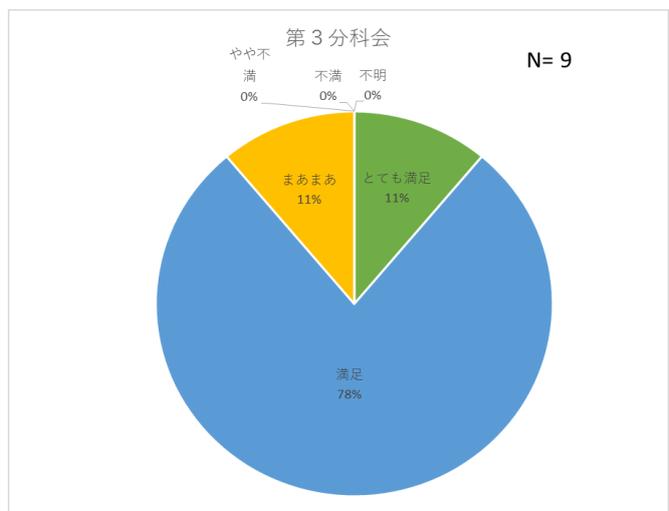
- ・障がい者優先調達推進法の運用について知りたかった。
- ・皆で“一緒に”のキーワードに魅力を感じます。
- ・熊本県のネットワークが強く広くとてもうらやましく思うとともに自分たちもがんばらない、と思いました。
- ・どんな活発な活動が実践されているか？どうやってネットワークに参加できるか？そんな話が聞きたかった。
- ・共同受発注のメリットと同時に基本原則のSDGSの再認識ができました。
- ・高卒でA型でがんばっている若い方たちの為にもっと広い視野を持ってもらえたらなと思っています。(特に知的の方)障がい者雇用を積極的に考えている企業の見学や情報提供がA型にもあれば良いなと思います。利用者さんが「一般就労するA型に残ってがんばる」という選択肢があってもいいなと思います。
- ・ネットワーク(官民の)進捗もスピード感が感じられなかったし、A型の連携は大事だと思いますが、福祉全体のネットワーク感が感じられなかった。どんな活発な活動が実践されているか？どうやってネットワークに参加できるか？そんな話が聞きたかった。
- ・ネットワークがしっかりできている熊本市が羨ましいなあとと思いました。私達も官民一体となれるきっかけ作りから動き出さなければならぬ…と。
- ・ネットワークとパートナーシップが大切！管理者とのパートナーシップが熊本市は熱い気持ちを持った管理者の方が多いのでしょうか…
- ・仕事がないといわれる田舎・農村地方での就労支援の大変さを改めて思った。



分科会3	
とても満足	1
満足	7
まあまあ	1
やや不満	0
不満	0
不明	0
合計	9

#### ■コメント

- ・農家さんに求められるものが聞けて良かった。



#### IVご意見、ご感想、ご質問等

- ・もっと事例(成功例、失ばい例など)取り入れてほしい。
- ・今回の経営改善計画、事業外収入を含めた収入一経費をもう一度復活して頂けるよう、国へ要望する提言をしていけたらと思います。
- ・全体の構成、時間が押さないよう 内容、すり合わせを行なってほしい。詰めすぎることより時間内に終わるのが大切。
- ・重要な取り組みだと思います。格話題を掘り下げたり、解決事例があればと思います。(各論)
- ・職員給与の充実(定着に向けて)
- ・新規参入企業への導入プログラム等の作成。
- ・地域の産業への人材紹介の仕組み作り、または企業からの募集人材の紹介、ネットワーク作り。
- ・多くの事業所があり、多種多様な仕事等もある中で、講演後に興味を沸くような取り組みも多くあったので、充実した講演を聞くことが出来ました。
- ・A型から一般就労を支援する施設と、関係機関につないで、まかせきりになる施設とあるが、そういう事例等。
- ・就労支援の中で一番むずかしい事業であるA型が、一番きびしい状況におかれている事に、日々疑問を持って支援を行っています。A型は利用者の方に労働者の身分を保障するすばらしい制度です。まじめに、まっとうに支援している「よいA型」ががんばれる世の中になってほしいと思います。
- ・「企業」と「A型」の矢印が「A型」→「企業」でなくて、「A型」⇄「企業」と平等な関係性になればと思いました。
- ・自分の事業所が抱えている悩みを投げ出せる場が欲しいです。
- ・分科会など、少人数のグループで意見をだしやすいようにしてはどうかと思います。
- ・企業との連携のフォーラム(福祉事業所だけでなく、障がい者の働き方改革。